



G-Technology™
by Hitachi

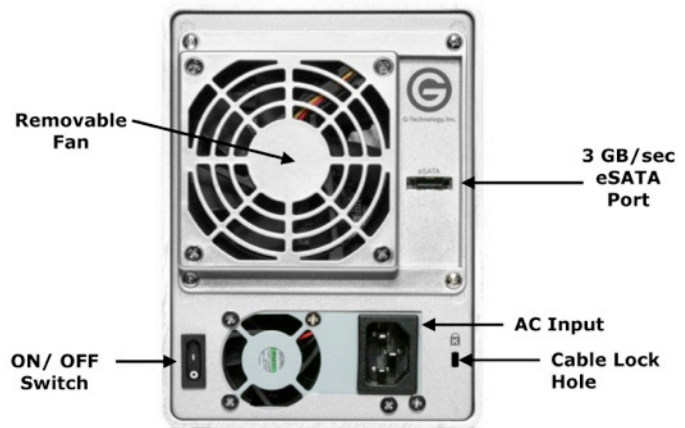
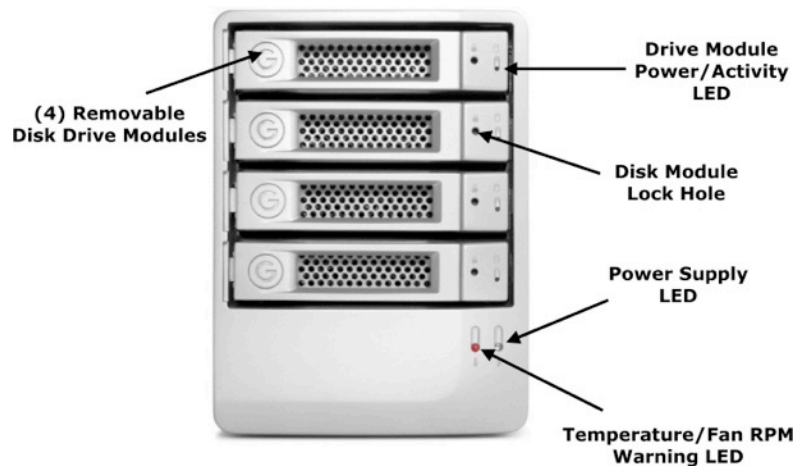
G-SPEED eS クイックスタートガイド

はじめに

G-SPEED eSをお使い頂きありがとうございます。本製品は3Gbit/秒のeSATAインターフェイスを備え、G-Tech PCI Express (PCIe) RAIDとともに使用することでRAID 0、1、5、10、JBODの設定が可能です。このコントローラには、G-SPEED eS本体を4台まで増設が可能で、最大48TBの容量と600MB/秒の転送速度が実現できます。

同梱物リスト

- G-SPEED eS本体
- 着脱式SATAドライブ ×4
- 着脱用キー ×2
- ディスクトレイ用予備ネジ ×6
- 1メートルeSATAケーブル
- AC電源ケーブル
- インストールCD
- PCIe用RAIDコントローラカード
(オプション)



推奨環境

Apple MacPro (Intel Mac)

Mac OS X 10.4. 以上

本体からの警告音

次のような状況下ではG-SPEED eS本体が警告音を発します。

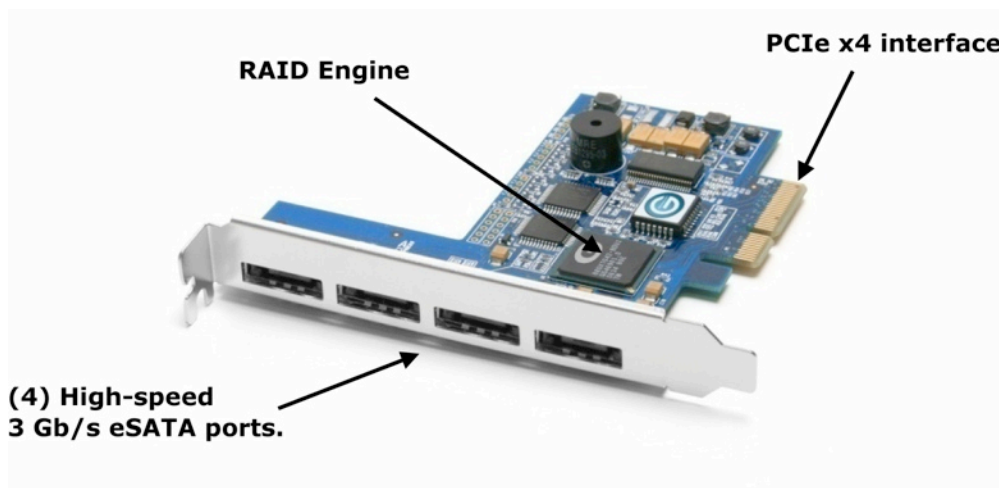
1. 本体内部の温度が60°Cに達した時
 2. Removable FANの回転速度が低下もしくは停止した時
- 上記の警告音の他に、本体前面のLEDが赤く点灯します。

※これらの警告を発見した際は、直ちに本体の使用を止めてください。FANが回転しているかどうかを確認して、本体を冷所へと移動させてください。

RAIDコントローラカードからの警告音

次のような状況下ではRAIDコントローラが警告音を発します。

1. HDDに何らかの異常が発生した時
2. Macの電源が入った状態で、Web GUIメンテナンスメニューの「Unplug」を選択せずに、G-SPEED eS本体をカードから切り離れた時

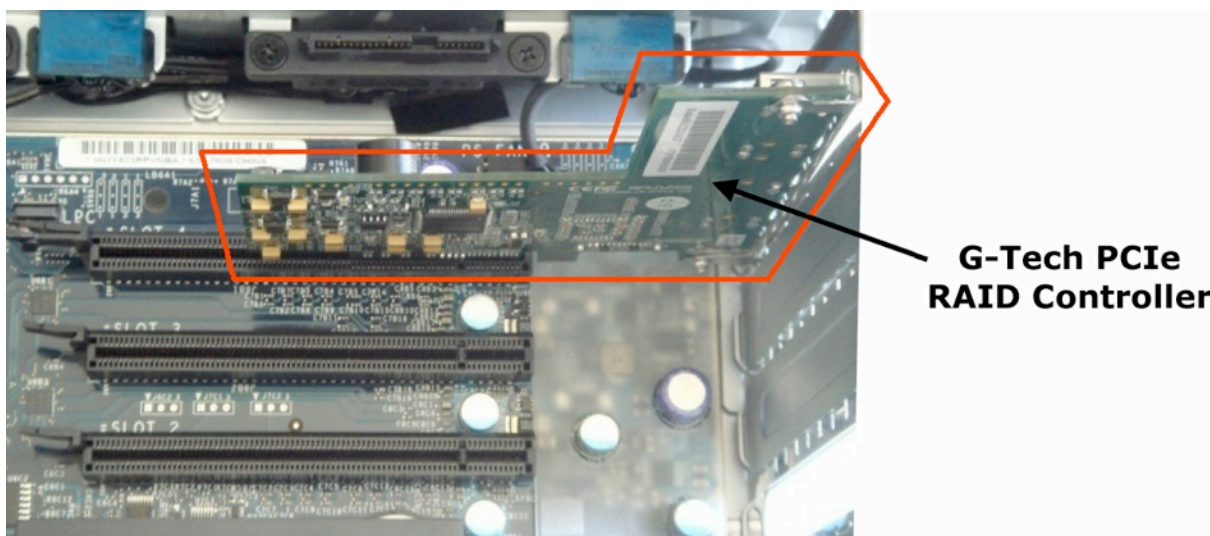


※カードからの警告音は、GUIのManage画面下の「Beeper Mute」 ボタンを押すと止まります。

RAIDコントローラカードのインストール

RAIDコントローラカードをMacProのPCIスロット3もしくは4に挿します。

※AJAやBlackMagic等のキャプチャカードを使用している際には、それぞれのインストールマニュアルにしたがって空いているスロットに挿してください。



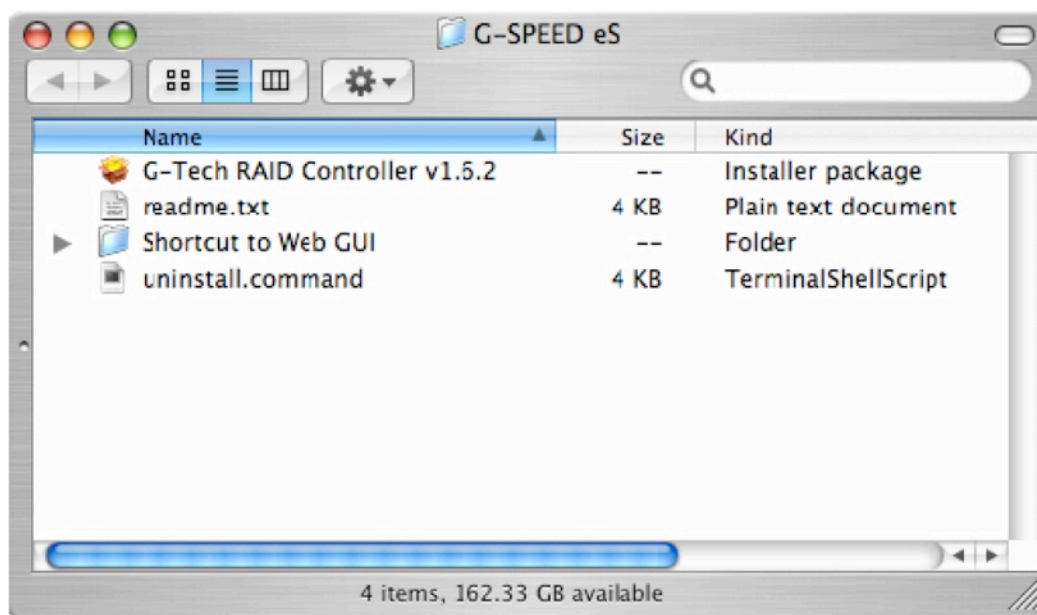
RAIDコントローラに付属のeSATAケーブルを挿して、G-SPEED eS本体と繋がめます。

ドライバのインストール

1. 最新のドライバを下記Webからダウンロードしてください。

<http://www.g-technology.com/Support/>

2. 「G-Tech RAID Controller v1.X.X」をダブルクリックして起動します。



3. インストール画面の案内にしたがってドライバをインストールします。インストールが完了しましたらPCを再起動してください。

4. アンインストールする時は、インストーラと同じフォルダ内にある「uninstall.command」をダブルクリックして画面の案内に従ってアンインストールしてください。

Web GUIの操作

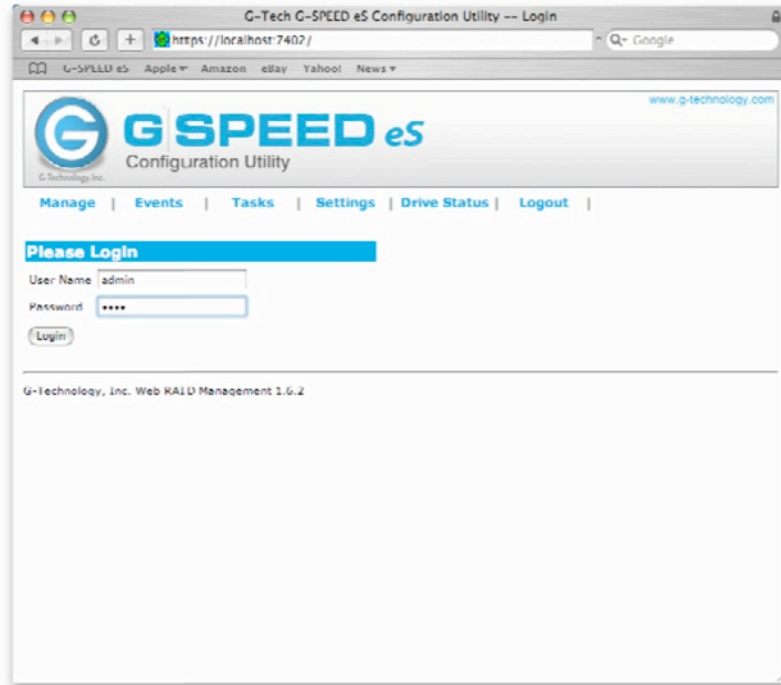
1. ブラウザを立ち上げ、下記アドレスを直接入力してください。

<https://localhost:7402>

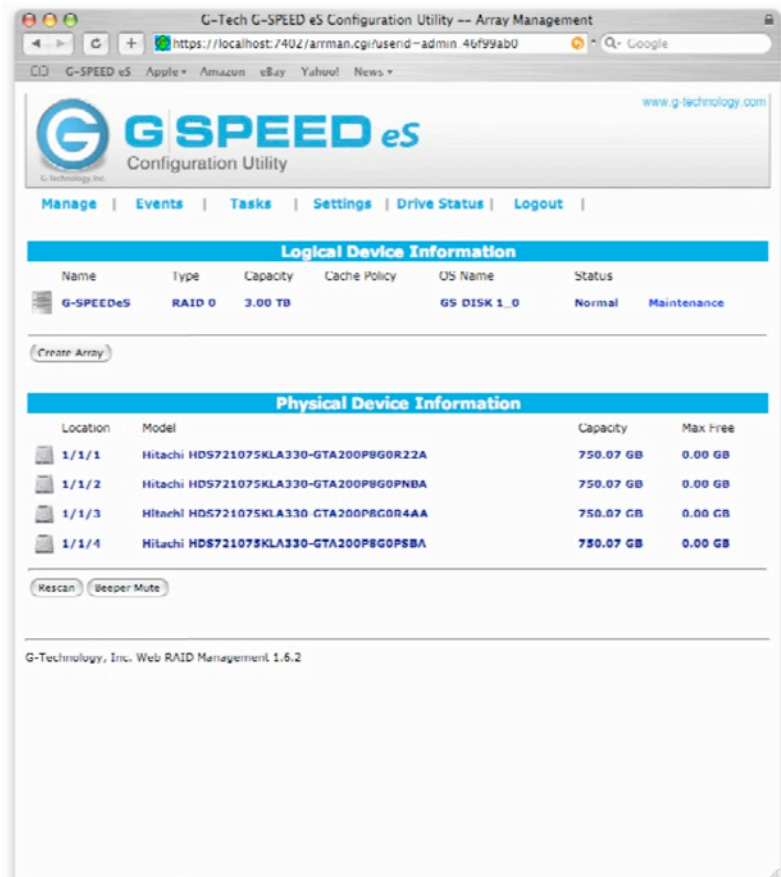


2. ポップアップウィンドウが表示されたら「続ける」をクリックしてください。

- ログインページが表示されたら「User name : admin」、「Password : 0000」と入力して、Loginボタンをクリックしてください。

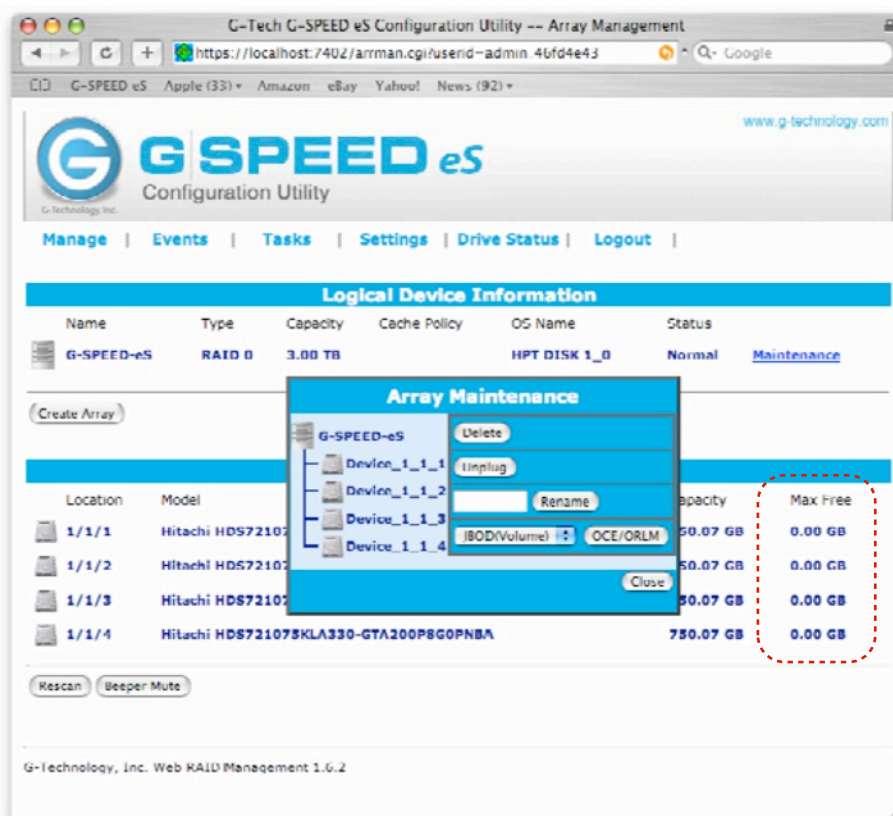


- 正常にログインできると次のようなメインページが表示されます。

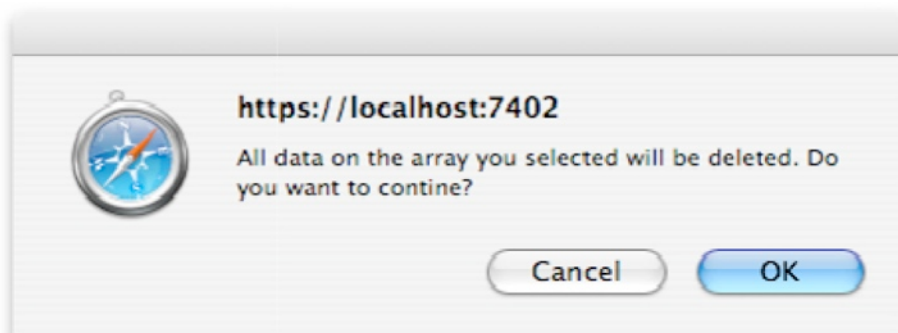


RAIDレベルの変更

1. デスクトップ上のG-SPEED eSのボリュームをアンマウントしてください。
2. G-Tech RAID Controller Web GUIを起動してください。
3. Logical Device InformationにすでにVolumeが存在する場合、「Maintenance」リンクをクリックし、Array Maintenanceウィンドウを表示させてください。Volumeがない場合は、Physical Device Informationに表示されているHDDに空き容量（Max Freeに表示）が十分にある事を確認し、手順5に進んでください。

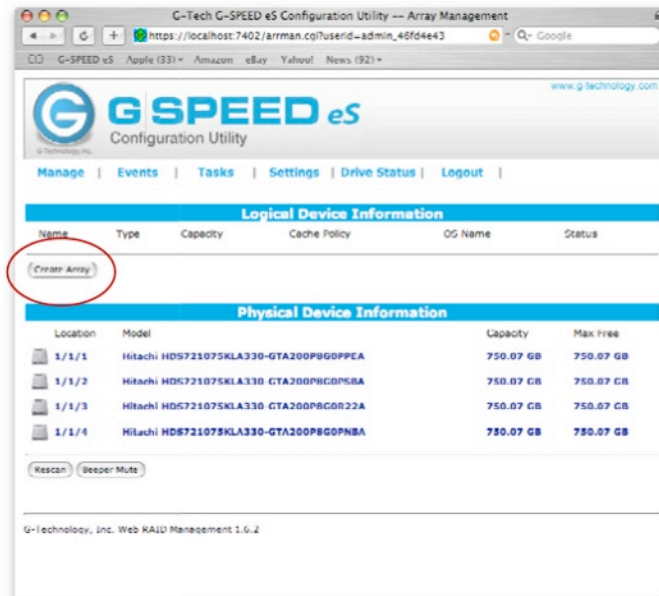


4. 「DELETE」ボタンをクリックすると、ポップアップウィンドウが表示されます。「OK」ボタンをクリックして次に進んでください。

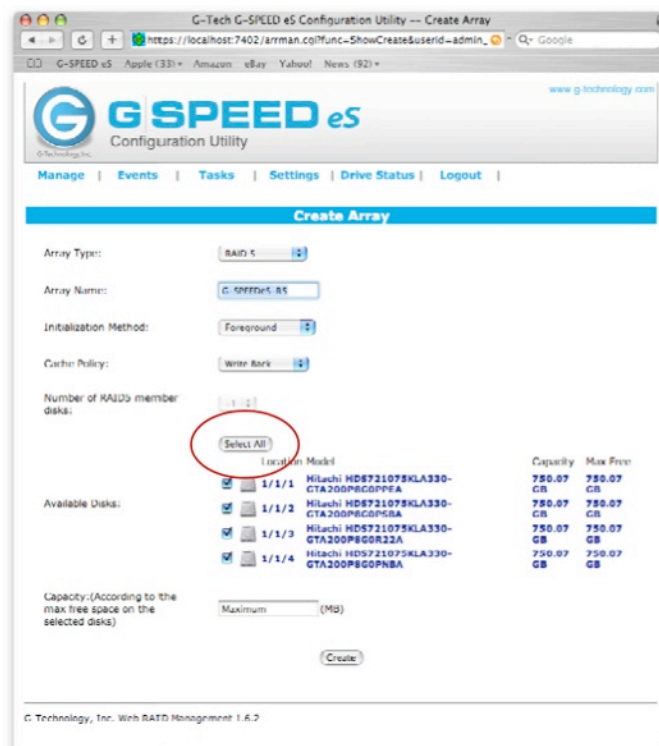


注意：この作業によりG-SPEED eS内の全てのデータが削除されます。

5. Volumeが削除されるとGUIが次の様に更新されます。新しいVolumeを作成するには Logical Device Informationの「Create Array」ボタンをクリックします。

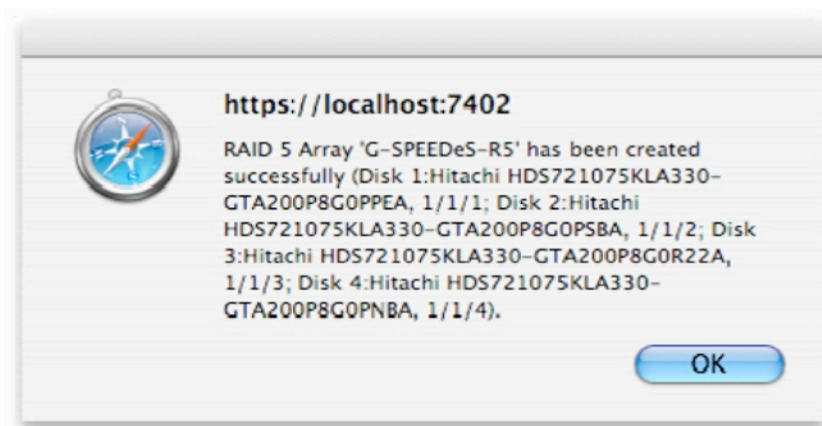


6. 「Create Array」ボタンをクリックすると、次のようなウィンドウが表示されます。

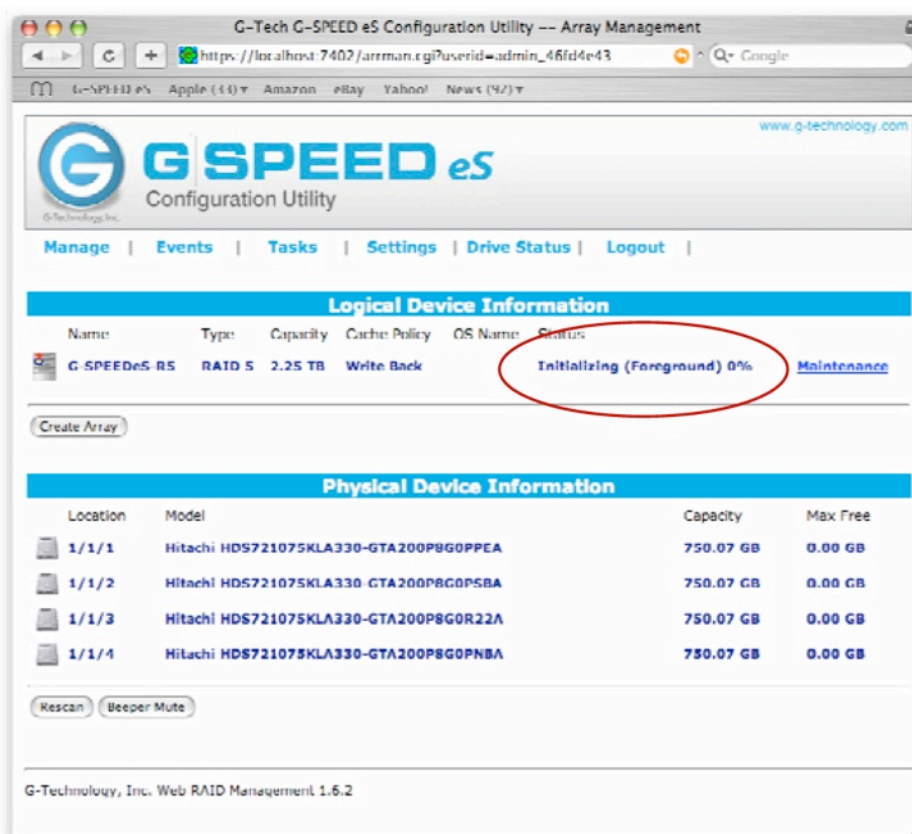


7. 「Array Type」でRAIDレベルを選択、「Array Name」に任意の名前を入力、「Initialization Method : Foreground」、「Cache Policy : Write Back」と上から順に選択して「Select All」ボタンをクリック。チェックマークが入ったことを確認して、ページ最下部の「Create」ボタンをクリックしてください。

8. ポップアップウィンドウが表示されます。「OK」ボタンをクリックし次に進んでください。



9. 「OK」ボタンをクリックすると次のようなウィンドウが表示されます。これは、G-SPEED eSが初期化され、Initializeが開始されたことを表しています。

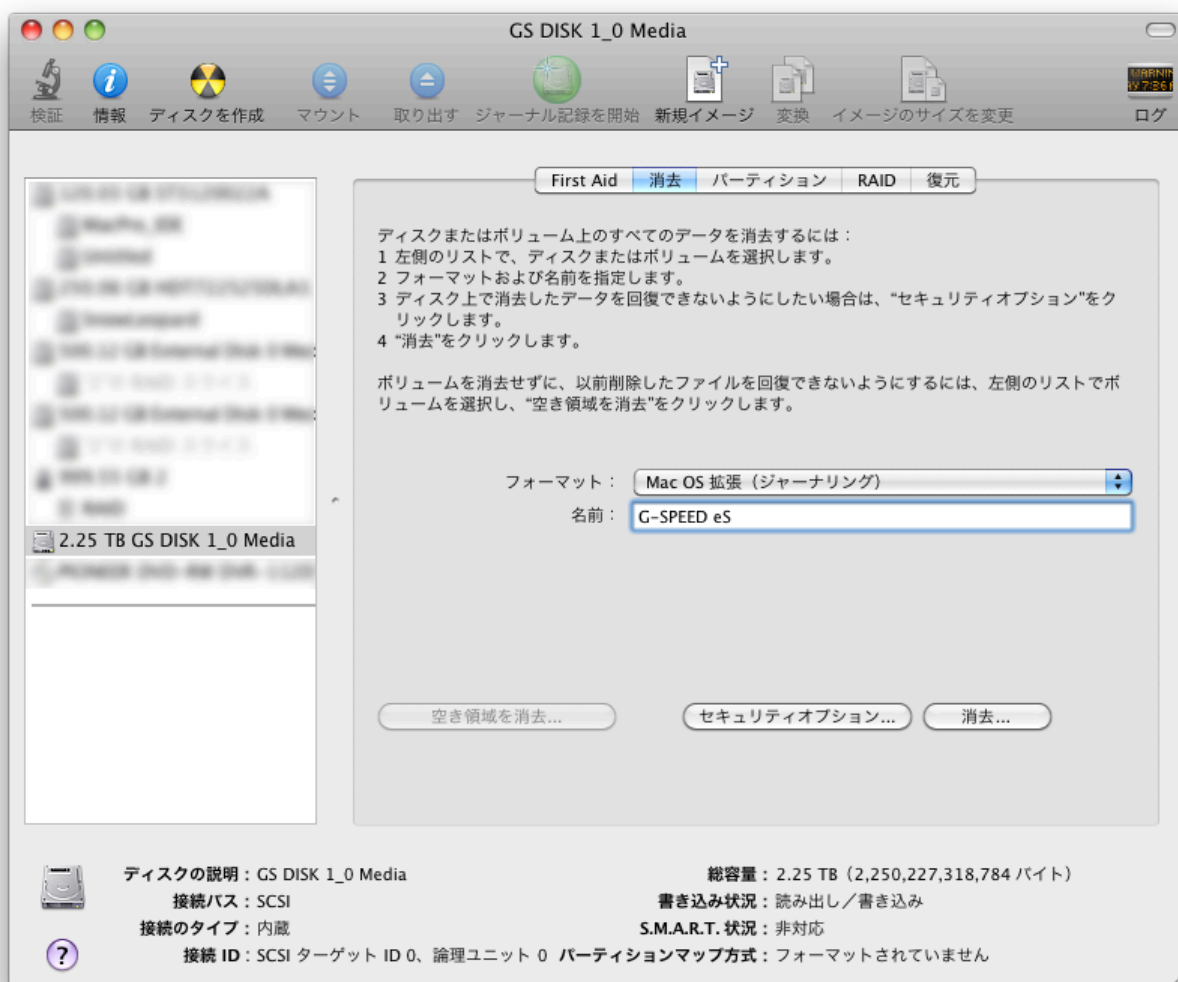


10.今回は、RAID5で初期化プロセスを行ったため、総容量から1ドライブ（約750GB）を引いた数値が最終な容量となります。初期化プロセスが完了すると、「Type : RAID5」、
「Status : Normal」と表示されます。

11. Initializeが完了するとMac OSからポップアップウィンドウが表示されます。「初期化」ボタンをクリックしてください。



12. 自動的に「ディスクユーティリティ」が起動します。G-SPEED eSのボリュームを選択して、「消去」タブから「フォーマット：Mac OS 拡張（ジャーナリング）」、「名前」に任意の名前を入力して、「消去」ボタンをクリックしてください。



13. 以上でRAIDレベルの変更は完了です。デスクトップ上にG-SPEED eSのボリュームがマウントされ、通常通りに使用できます。

G-SPEED eSのアンプラグ

1. Mac本体のアプリケーションから「ディスクユーティリティ」を起動して、ドライブを選択した状態でマウント解除ボタンを押します。（デスクトップ上のドライブを右クリックして「～を取り出す」を選択しても構いません）
2. ブラウザを起動して下記のアドレスを入力、RAIDコントローラーのWeb GUIに進みます。

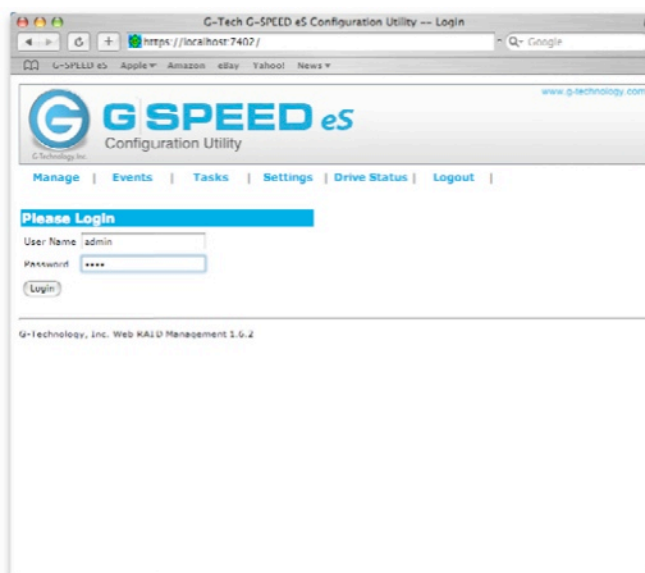
「<https://localhost:7402/>」



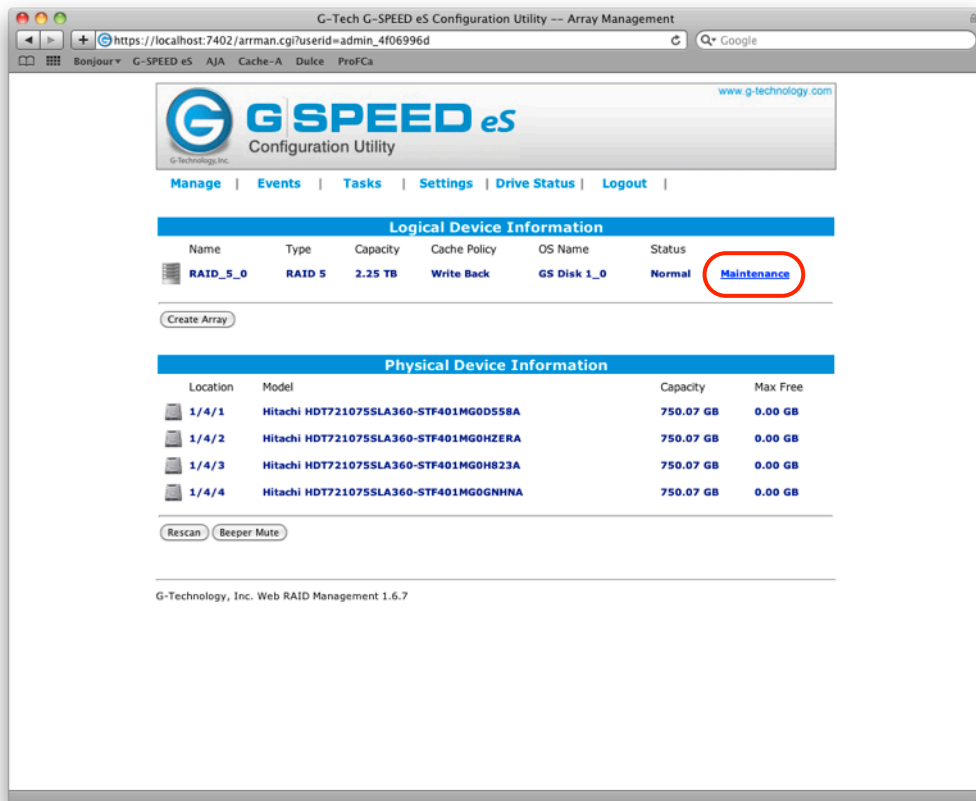
WebGUIのログイン画面が表示されたら、次のように入力してください。

「User Name : admin」

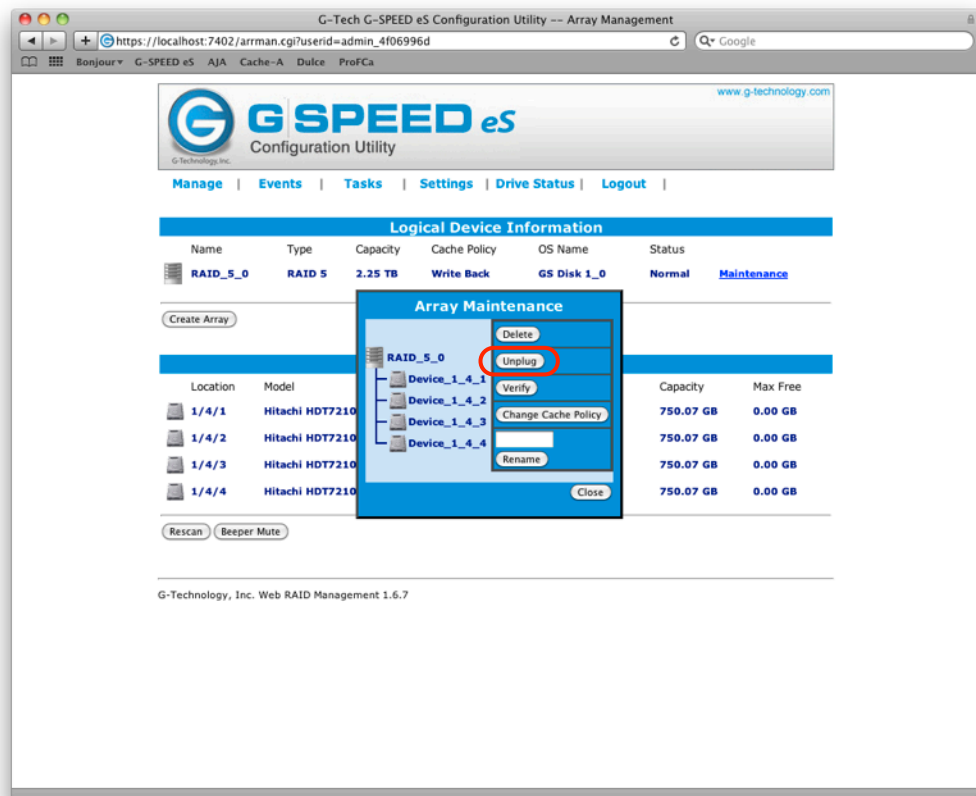
「Password : 0000」



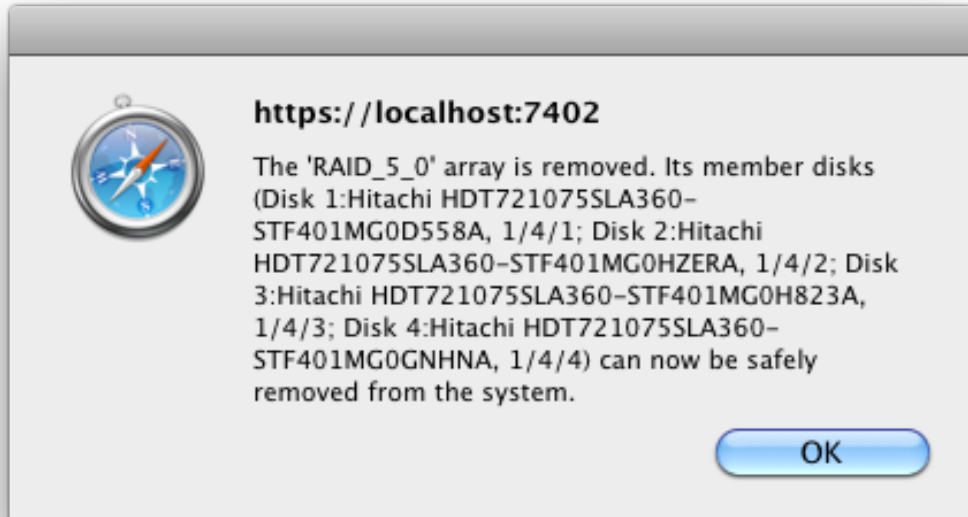
正常にログインできると次のような画面が表示されるので、「Maintenance」をクリックして次に進んでください。



3. Array Maintenanceウィンドウが表示されたら「Unplug」ボタンをクリックします。



次のウィンドウが表示されたら、ドライブに接続されているeSATAケーブルを抜きます。
その後、G-SPEED eS本体の電源を切ります。



注意：Macが起動している状態で、アンプラグ手順を行わずにG-SPEED eS本体の電源を切ったり、eSATAケーブルを抜いてしまった場合、RAIDコントローラーから警告音が鳴ります。その際は慌てずに、WebGUIにログインし、画面左下の「Beeper Mute」ボタンを押して下さい。
ただし次回接続時には必ずリビルドがかかってしまいます。リビルドの最中も使用はできますが、パフォーマンスの低下は免れません。